

十勝で農村ステイ事業

十勝管内で農村ホームステイを展開するNPO法人「食の絆を育む会」が5月から春の受け入れを始めた。6月3日には、大阪府立園芸高校2年生191人を12市町村59戸の農家で受け入れた。今年で9年目を迎え、これまで約1万7000人を受け入れた。十勝で就農する人もおり、都会と農村を結ぶ懸け橋の役割を果たしている。



今年は5〜7月に3校720人、9、10月に6校1800人の受け入れを計画する。初参加は1校。主に関西の高校生が修学旅行で利用する。

同校は今年2校目で2回

今年で9年目

食の絆を育む会

目の農村ホームステイとなる。十勝管内豊頃町で乳牛200頭（経産牛130頭）を飼育する石田美智雄さん（60）宅には、勢川寛太さん（16）と神吉正太さ

真剣なまなざしで搾乳作業をする勢川さん⑤、石田さん⑥

（豊頃町で）

進路選択の参考に

大阪府の高校生
191人受け入れ

ん（16）が訪れた。搾乳と哺育牛管理などに汗を流した。2人ともたくさんの大きな牛を精密な機械で搾乳する現場に驚き、神吉さんは「搾乳は手作業だと思っていた」と話した。

2回の経験で手際よく搾乳作業した勢川さんは「慣れるまでに時間がかかった」と話す。2人は将来、造園関係の道に進む予定だが、神吉さんは「一頭一頭を大切に扱う心を造園業でも生かしたい」と振り返った。

石田さんは「目にするものが全てが初めてで、驚きと不安が多い様子だった」と話し「十勝の酪農に触れて、できれば関係する職業に就いてほしい」と語った。

同会の近江正隆理事長は「この事業を機に十勝で就農、就職、進学する生徒が出てきた。農村生活で得た、たくさんの学び・気付き・感動を将来について考えるきっかけになってほしい。事後交流も充実させた」と述べた。